



三七全傳  
 占夢南柯後記  
 第三篇  
 四



特別  
 ^13  
 3148  
 16





特  
BI 48  
M  
16

三七全傳 白夢南柯後記卷之八

東都

曲亭馬琴編次



夜川の野航

看く主の頸を遮せし。半七が通が恨喻る物ありといふも。大層の  
およ倒んとするぞれ。一本のより柱をきりあはせ。只臍を噬。腸を  
断のぞ。又せん術のありけり。いかにあぶるふら。秘は。半七忙しく。  
土通が索を釋捨て。面をげよ。跪き。國乱して。大臣見え。家貧しく。  
孝子出す。七不肖の身を以。君家の難。今紙情。偏に孤忠を。  
尽さんと欲せられども。虎狼途は。様りて。事既よ。こよ。及ぶ。姉は。六  
ちものかくゆして。大和へ赴き。君と父と。事。の競。と。出。某。と。速。  
穂姫は。追著。も。りて。冥土の。おん。供。つ。ま。ら。ん。とい。ひ。も。果。ぶ。め。を。

南河後記卷八



肚へ突くそんとさる如き通の急は推角を潜然と涙を落し死ん  
とらへ理は似れど死しと忠義のありのるふ。つとこそ先へ死  
なれ牙の死に益るたさのふら。いれどもあつた娘の怨敵陶  
五郎あり隼人の一刀怨きてその後。肚を切て死ぬれこそ真の  
武士といふべけ。つたて狼狽して世の胡塵よりあると疎ま  
半七も有理と嗜りて刃を納め。姉所前の異見道理不稱  
今塔がたれ恨を堪忍びうたれ羞を忍び。灰を呑み牙は齧はても  
陶と厚実を粗勢あつて後。殉死とも。実よられ遅きたあふは  
まうんども某らよ。函が。寛家由又油断さう。一圓隣國へ  
牙と避てあひひく小窟さ。姉所前の直さよ大和へ赴て。これの  
こと。彼告めく同胞あり共よとらん。謀るたよ似し。といふお通を

うらら兵隊。吾儕もまうらふ。曩も泥多の菴を。とれ野伏ホよ  
推隔られて。播華微笑。尼よ。乃達さるぬ。かま。彼尼刀称さる。  
さそ。ね胸くく。坐らぬ。今宵。槐姫の亡骸を。煙とら。な。  
灰を。搥。骨を。収め。ま。は。携。て。派。多。へ。赴。す。彼尼刀称さる。み。  
縁由を。告。志。して。彼。知。へ。尋。ね。て。む。す。と。さ。う。おん。牙。も。ま。が。安。藤。國。  
ま。で。退。き。て。尼。刀。称。さ。ら。み。對。面。し。又。お。花。が。往。方。を。索。た。す。彼。  
剛。敵。を。撃。ん。と。一。朝。み。の。謀。り。が。う。早。く。て。失。く。る。と。叮。嚀。よ。い。  
諭。せ。ば。ま。せ。こ。ま。了。隨。ひ。て。志。を。激。し。く。撲。き。牙。の。疼痛。を。忍。び。び。  
お。通。り。共。納。戸。り。姫。の。亡。骸。を。扛。出。す。お。被。ま。わ。り。し。る。單。衣。の。  
い。く。鮮。血。は。塗。ま。り。く。べ。その。色。さ。り。由。ん。え。り。次。頭。顛。る。け。ま。は。  
在。り。世。の。ぬ。と。も。定。め。難。る。ま。ま。よ。濟。す。れ。正。い。ふ。べ。う。も。あ。ら。ん。



涙のこぼれたるうらみ落てゆせんまぶさなる日の暮るを待て  
亡骸を密する野外に出く。遂は一片の煙とす。送骨壺は  
納めてこまをぶち通分項は幾かて同抱より連らして安藝の  
浪多へとそゆく程よその夜通骨をけしる福川のあるさる。  
八千川のふとらままであまらる。十七日の月もや傾てをや曉るふ  
近う。あまて夜をわけてこそ彼川を渡さあそ同抱り共ふ  
夏草を折布て小雲時懸んとくち折途より跡を跟てや来らん  
引剥軟とおぼしくて月影の跡長く延せし。牙はさる暴雄木三人  
樹蔭よりまう出まご年より男女の夜をこめて跡を奪れ  
仇ある情は跡と圍。鞆の便服をさる當は太坂へとそゆくや  
あん疲勞とく竹興りとも馬のりとも貧乏さ酒價と

こせと教勅つ。初は進ま一太倭子衝と寄て才七が胸前を  
しと投る。右の巻を懐へさう入るととる知を拂ひ退る身を  
起し引被て撞と投ま後る。兩人の悪棍ども太さう怒て  
声をもつけど刃を抜て砍んととる紙半七ゆらりと身を  
抱なす當りのとも烈く蹴み程よ投られは太倭子やうやくあ  
身を起して二人分中より押取巻を勢を憑り砍しるまは通の  
備よりる由詰く。才は失われとて懐劍を引抜つ。悪棍小が後方  
より。声響て急じろ女子のるれども侮アうら。悪棍木ハ既は背お  
敵を受けて大刀とらつ忽地乱まよけまは半七勢は十倍して踏込く  
撃刀の中なる賊が腕を三寸あまら丁と切りうらと夕ふ左のみる太  
倭子が右の腕を砍て坊とせは仰るぬふ倒る紙お通ハかて取て押へ





千川の  
野航  
夫婦同船  
危難を  
脱する

アノ男

羊七

あや太



いづみ











夜天神川の母よりすむ。彼老翁は流し出され。釋既難儀不  
及びお。さひもけむ。姉は救ま。槐姫は環會もりて。かて宿所へ  
誘引する。種よ。名訪人ありて。あへる。姫を奪ま。う。かれが。一日より  
とも。存命べき。牙ふあ。げ。肚う。死。切て。姫君の。眞士の。御導せん。あ。と  
さひ。か。是。と。姉。は。疎。れて。更。は。仇。人。と。替。ん。爲。ま。且。く。彼。地。を。退。く。  
姉。の。う。共。よ。泥。多。の。括。華。庵。へ。と。赴。く。あり。そ。下。め。を。い。へ。箇。様。と。  
お。通。が。同。樹。と。天。神。川。へ。欣。流。せ。し。り。敗。賊。全。ぬ。ぐ。と。陶。五。郎。が。厚。金。  
集。人。が。姫。の。お。ん。頸。を。刎。じ。り。と。括。華。菴。の。兩。比。丘。尼。の。外。母。を。死。た。と。  
お。花。が。妹。の。夏。山。より。正。此。彼。も。ち。由。る。く。お。諸。ま。ば。お。花。の。け。り。と  
こ。ま。い。び。て。或。の。怒。り。た。或。の。恨。を。或。の。恨。を。或。の。怒。り。涙。船。を。ほ。り。し。  
如。く。在。の。月。も。これ。が。考。よ。更。は。光。と。さ。し。り。ふ。知。り。且。く。お。七。

忽地陸のわらぬえり。今既よお花は環會といふも。嚮よ草紙本を  
追ふとねお姉の往方を失ふ。お花はさめて。彼を侍をん。う。ら。め。  
女子の川を渡るとをぶえ。げ。し。や。と。同。お。花。の。ち。点。改。現。宣。ま。れ。  
如。く。嚮。お。ん。牙。が。悪。棍。木。を。追。蒐。て。西。の。う。ま。走。去。ゆ。ひ。時。路。中。  
残。り。る。婦。女。子。鎖。は。声。を。う。り。ま。て。長。追。り。ゆ。ひ。そ。と。ま。り。げ。り。  
う。け。て。ま。在。る。が。遠。く。左。子。お。繫。然。る。野。航。ふ。う。ち。を。あ。り。と。さ。づ。ら。  
棹。を。操。り。て。向。の。岩。へ。の。ぼ。り。ま。れ。原。來。姉。の。前。よ。と。り。たり。と。い。の。を。  
お。七。の。果。ど。ま。る。と。死。の。を。安。し。これ。も。向。へ。船。を。著。て。と。く。姉。の。前。  
お。逐。著。ん。と。て。遠。く。纜。を。解。捨。て。船。を。河。中。へ。漕。ぎ。り。り。漕。知。り。  
一人の癖者。稚菰の中より。頭を出し。提。り。種。島。の。智。鏡。と。さ。り。  
る。河。中。の。船。を。吊。り。て。火。蓋。を。切。て。撞。と。幾。と。ま。お。七。を。お。棹。を。



抱て膝小伏ふけまば九八頂の上とてぬくす小恙あり。癖者への  
形勢小公慌て又遠く九を籠再び担撃んとせんと死。取ふ心地  
向へ著て洞遙く遠離まば癖者大さ小焦燥て多統を夏籠と  
投捨統て向へはさんとして取を索て河流へ足たをふ走りゆ。備の  
芦荻とさうくと推りたて。頭ま出るへこま由又癖者とおぼしめて。  
子拭よ面と果を肩小受らる金瘡を布りて巻て項に懸ひ瘡  
ふ屈せぬ面魂。河原をまる癖者につくくと透見て全女等と吸ひ  
齒る声ゆ後共は昭鳥森とせらるる朝風よ。夏いと寒く八千川の  
あよりまむむわかれ時を予旅客のいである飲と左右をえり  
は。まより然る月招れり。此彼まが。密詰るるべし。

合歡の花桶

天文二十一年夏六月廿九の日。安芸國高宮郡。泥妻の御のやう  
ある。彼此人隊をほし構を結び。括率比丘尼が草菴小嚴流の兵材  
天を勸請して。三日三夜の法述を興とありたり。その左をたがぬれば。  
今茲ハ五月のそめより。後て一滴も雨ふらば草木へ枯槁金石ハ  
流漂行人途を去りあむ。民の歎き大なるる。後ハ兩乞の祈禱と  
せん。とて彼此の里人ホ女僧が菴よ天女を祀し。或ハ五色の織を徒  
或ハ笛を吹鼓を鳴らし。けゆるん三日の結成とて糸指の老弱男女。  
咸菴室は集会移り。隊の長持の政木ハ。織木綿の行浴衣へ  
麻上下をまゝするものあり。髡鼻禪のそる。裸體へ苜蓿の袴穿するも  
あり。囉齋青道公ホハ白袴の単衣小腰衣まするものありて。いと  
置く。毒を。堂濟寺洲の構衆ハ。六疊の房へ集會あり。浦



三原の二隊へ客殿へ圍居り西条の新構えを柿の水引  
隔て居るを。彼後あるかゝる元へ。酒を飲さぬや。布  
六人小児をいび。百文。膳牌と即引がえ。辛皿。茄子。油揚の  
豆齋。雜混汁。猪口。葉胡蘿蔔。魚のひじ。お香の物。胡凡の輪  
切。さそ飯。食放。額。僅。鐵。淺。百文の布。菟物。で。くの如く。の齋。い  
つた。如。是。の。法。令。は。逢。ひ。獲。が。た。甘。雨。を。獲。ら。ん。あ。か。た。ろ。う。廉。さ  
りの。へ。子。奉。道。場。の。子。陟。ま。れ。ば。奥。の。殊。さ。ら。し。く。房。も。あ。ら。秘。ど。  
各位行儀第一。神妙。又。因。繞。り。の。百。味。の。供。物。神。酒。る。ん。ど。と。  
流。経。果。て。割。賦。ま。じ。履。物。へ。牌。著。て。置。所。を。亡。道。の。あ。ら。み。預。物。を  
い。こ。ぬ。ぞ。よ。ね。懷。中。物。の。用。ひ。の。奥。く。と。声。あ。り。ま。す。嘔。け。が  
目。口。へ。流。し。入。る。汗。も。不。と。拭。ひ。あ。ら。ぬ。施。主。も。道。者。も。つ。れ。ま。す。  
客殿。陟。し。籠。入。り。り。り。その。月。も。午。の。貝。吹。て。糸。箔。や。中。度。終。し

久。紛。入。る。道。俗。二。人。奥。の。か。さ。り。滑。び。出。陣。と。同。と。待。て。息。改  
は。端。ち。ろ。く。あ。り。て。縁。ふ。立。在。り。が。祖。翁。奥。の。為。体。ま。さ。ら。せ。り。て  
え。の。あ。ら。や。平。く。の。途。へ。来。ら。ん。と。思。ひ。申。七。が。新。ご。ま。は。不。審。と  
い。び。同。樹。の。子。を。抗。て。や。全。女。青。字。と。振。振。あ。て。奥。を。い。く。の。額。を  
あ。の。く。と。声。を。不。そ。め。い。ま。も。さ。の。あ。ら。ぬ。も。是。弱。と。伴。い。ま。せ。七。と  
後。ま。や。志。けん。道。ま。ら。ゆ。い。ひ。つ。る。如。く。い。ぬ。る。十。六。日。小。夜。更。て。い。れ  
彼。申。七。と。天。神。川。の。得。と。り。人。形。引。牛。と。さ。ぬ。く。お。罵。り。て。飽。や。を。這。奴。あ  
腹。を。た。く。言。葉。質。と。ろ。り。て。撲。つ。跟。つ。竊。よ。汝。が。身。を。取。り。去。り。暗。踞  
ら。が。め。て。お。ひ。も。う。け。ぬ。女。の。子。は。腸。を。破。割。ま。す。河。を。あ。ら。流。落。り。く。べ  
山川の早流。又。推。流。さ。れ。て。浮。ぬ。沈。ぬ。幸。く。て。沢。川。へ。流。れ。出。彼。処。の







のゆれて。ま七お通と奪取とんととまらる。お陶五郎の外せしふ。  
 奪むと仇人を由奪む。これの却陶殿不詰りて。四五六の集ふ  
 園と富田の稚山へ侍る。途より竊取てくへ。ま七等か集路の  
 かに赴くより夜半より。夜を日お継て。這奴亦を追。萬八千川の辺  
 みて。その背教へん。とども。あう一條を隔れば。亦彼知す。由奪漏し  
 慥ふ。とまらる。とまらる。お跡。とまらる。とまらる。途をうえて。逃  
 る。途中途。奪む。の。お。深く。慮りて。追失ひ。の。送恨  
 まれ。と後悔。とれ。が。ら。笑ひ。ある。理り。も。れ。も。途。と。う。え。て。も  
 かの。如く。ある。は。西。条。よ。て。ま。七。が。里。人。は。泥。多。の。括。華。庵。と。何。如  
 ぞ。と。同。る。お。竊。む。と。ま。ら。る。も。あ。れ。は。十。九。の。た。ぐ。べ。う。だ。彼。お。通。奴。  
 の。ぐ。地。へ。た。け。ん。と。れ。の。這。奴。が。面。を。隠。し。と。真。る。群。集。の。中。み。や  
 在。る。全。女。汝。は。ま。ら。る。と。同。く。類。と。さ。し。冷。お。通。ハ。イ。や。オ。り。  
 けん。鶴。は。真。あ。て。え。と。れ。も。這。奴。の。あ。て。は。ま。七。と。奪。ん。ど。と。れ。乃  
 妨。る。と。ん。と。ま。ら。て。群。集。は。紛。入。り。その。ら。の。真。へ。も。と。只。と。ら  
 り。と。ま。ら。る。ま。七。が。往。方。あ。と。そ。と。い。ひ。つ。外。面。眺。早。ま。同。樹。も。共。よ  
 伸。あ。り。て。忽。地。お。指。し。示。向。ひ。く。ま。ら。ま。七。後。方。も。お。た。ら。し。  
 衣。の。ま。と。そ。定。ら。ふ。見。る。絲。菅。笠。お。認。あり。と。し。全。女。雀。躍。し。て。  
 現。と。彼。は。ま。七。の。り。此。度。の。い。つ。で。逃。と。と。と。巻。を。捺。同。樹。の。騒。が。ん。  
 逼。て。の。事。を。夫。の。の。ぞ。汝。は。ま。七。彼。知。る。芭。蕉。の。背。は。牙。を。隠。し。て。  
 且。く。便。宜。を。窺。へ。り。け。し。は。又。笠。貫。子。の。下。屈。り。居。て。汝。か。ま。七。を。奪。  
 と。れ。這。出。て。矢。庭。は。お。花。を。扛。攬。つ。ま。り。る。ん。抱。り。の。あ。る。あ。ら。ん。  
 汝。へ。こ。ま。ら。ぬ。殺。殺。し。て。お。通。を。攬。ひ。と。れ。は。統。て。ま。り。去。れ。

南の言

南の言







草の戸を死所と覚悟の縁て去る事と。いひつゆ又嗟嘆とんが。  
 お花の顔は酸鼻をうらたて宜みる。警警るも時の運おん身がた。  
 我の皇天の毎日お思ひのふある。さういひ定めても。定て終る。  
 哀別離苦一度別して又逢て。別きの後のいつるらんといひつて。  
 口隠まぶす七声を激して。そと五の歎き女子の愚癡を柴門の。  
 身も入る。後が知るなりとて。うらめしと。練るま由新護て。端なくと。  
 むくく人。まぶす。おれ厚愈隼人。腹巻ふ野袴穿て行。  
 装いつめを赤銅造の両刀と長刀。小使ひけらし。お花桶提。  
 つ。従者を懸おて。三揮の唐櫃を打捨。柴門ちちく。ある事。  
 是七の色を信とて。這奴の正しく。隼人あり。姫君の雙言。敵か。

狐太宰。うらた。おれ。あて。警警る。お花。と外母。へ。土ま。ま。  
 らま。ま。ま。の。あ。ぶ。り。次。り。神明の。真助。あ。ら。ら。ら。  
 必。姫。の。亡。霊。の。仇。人。と。道。す。た。り。あ。ま。ま。と。あ。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。  
 且。夫。地。を。礼。拜。し。て。刀。の。鞘。を。口。潤。せ。ば。お。花。の。袂。に。勢。著。る。  
 む。く。の。猛。く。と。も。彼。齋。せ。仇。人。の。身。勢。午。角。の。勝負。へ。公。の。と。ま。  
 ま。が。溜。び。て。後。置。を。窺。ひ。あ。ま。隨。お。警。て。こそ。真。の。勝。と。い。ひ。  
 登。け。ま。と。練。ま。ば。う。ら。点。改。む。ん。身。が。異。見。そ。の。利。あり。お。戸。乃。  
 陰。よ。立。隠。ひ。従。者。ホ。が。退。く。一。死。遣。過。し。て。隼。人。を。警。ん。さ。う。ら。  
 と。ま。ま。婦。ま。つ。れ。推。バ。忽。然。と。ら。く。と。零。條。子。こ。ら。ら。満。  
 お。戸。の。陰。よ。隠。ま。て。鬼。ひ。たり。さ。る。後。よ。厚。愈。隼。人。の。庭。門。  
 際。と。唐。櫃。を。括。華。菴。の。縁。前。よ。扛。入。ま。さ。う。と。呼。門。とい。ひ。あ。



私率二人ちろ移りて声とあり立菴主の比丘尼おもちうとせん  
 々の法会の施すとじて陶殿の市内ある厚余集人な善ぬ  
 みぐうら来臨しつる。出迎ふと叫ぶども。奥と散動く人の声。  
 門へ去ぐる。輝の音も紛まて去る。夜もせむ。まぶしく叫ぶとく  
 指華尼へ微笑をおく。忙しく。縁頼ちで出迎ふ。この心ひゆりけぬ。  
 里人等が私の宿預めて辨財天を勧請し。只假初集人会する  
 のまに侍るよ。改の殿の市内の力持原清來のふと幸多れいご  
 ころのま。と請われ。厚余集人の怒然と上坐にうらあがり。  
 やよ女僧とら。縦里人ホが私の祈禱もせよ。衆人等一致して  
 同く法會の殊更ふ天女も感念志のま。われ一昨日富圓あぐ。  
 このの氣傳せて。嘆賞のあやう。法會の料を助ん為よ直三。

みづうら波向なり。彼とんよ三棹の唐櫃あり。白糸五百位  
 青緡百貫文とま。双布施とて又の祝勢する。一桶の法花を  
 今と盛の合歡の花槐樹とねんごんご。こま。天女不献アを  
 陶殿の武運長えつら。人あも幸あせて。富貴延満如意  
 吉祥と叮嚀し。行念あんとる。かよ説示せば。指華尼啼て  
 うら微笑天官入赴らる。乃侍り。現中盛の合歡木花を眉掃と  
 名つけし。身を回舎人の流りて。移づこの花と喚。傲し。紫乃  
 状の槐ふれ。れど。花の殊更愛ら。や。天女子の眉掃の名も  
 似うら。く侍る。ね。と代る。あ。美。二人の女僧小頭傾ける。  
 ひま。厚余集人うら。長。一。瓶。の。花。う。る。母。涼。死。この菴  
 且く。こ。よ。て。汗。を。納。ま。ん。徒。者。ホ。ハ。外。面。羅。り。出。樹。蔭。り。と。あ。て



ぞく涼め。このそがしうまは徒者の折戸を出て樹下蔭ありひ  
 かりし不憇人形は両女僧の客殿へ設の席を修理人とてかぞ  
 真へぞ入るる。おこそよけとておせ七の折戸の蔭より顯ま出  
 刀の反せうちかくしと縁頼ふまのゆり五逆の罪人厚会倅人  
 せ七と認まへや。今こそ復を姫の袖云刃を受ふと罵りて刀を  
 抜く下と破る。お扇を以受とめや。待志をいひるあり。この  
 せものむど刃を引て透間もあく。勢て知る。杜士の大刀風と烈く  
 あらう移て厚会へ花桶取て受る。内より出る女の頭せ七  
 倍とてまひかえんて。さうくいつと疑ひ惑ひて。あつと尻居は撲地と  
 中次浩知小全ぬと竹槍を引提て。芭蕉の蔭より突て出。一旦  
 勢んとてまひ定め。赤根が長男刀治せ七とても腹を仇人の

半隻全ぬが料理の籠刺しとてまひとて競ひ懸らん。と  
 せ七の折戸の蔭より。お花の吐嗟とて入り。出牙を看みとて全ぬを  
 透り蔭と物ともせ。お花の女子の助大刀。お花の相伴  
 せ七と牛槍と一揮。勢てお花が胸前背へうけて。と刺し槍へ  
 急地。度毀と折。お花が姿の煙のどく。滅て跡あくる。うらうら  
 せ七のふ猛ま。全ぬも。忙然とて前後を失ひ。これお花のせつん  
 ぬら。せ七とてこの形勢。お花のうらうら。お花のうらうら。お花の  
 かく。厚会倅人が。勢より花桶より。滾出する女の首級。お花が  
 面影。お花のうらうら。これのうらうら。お花のうらうら。お花の  
 全ぬと透り蔭。お花のうらうら。お花のうらうら。お花のうらうら。お花の  
 放せり。彼とて。お花のうらうら。お花のうらうら。お花のうらうら。お花の



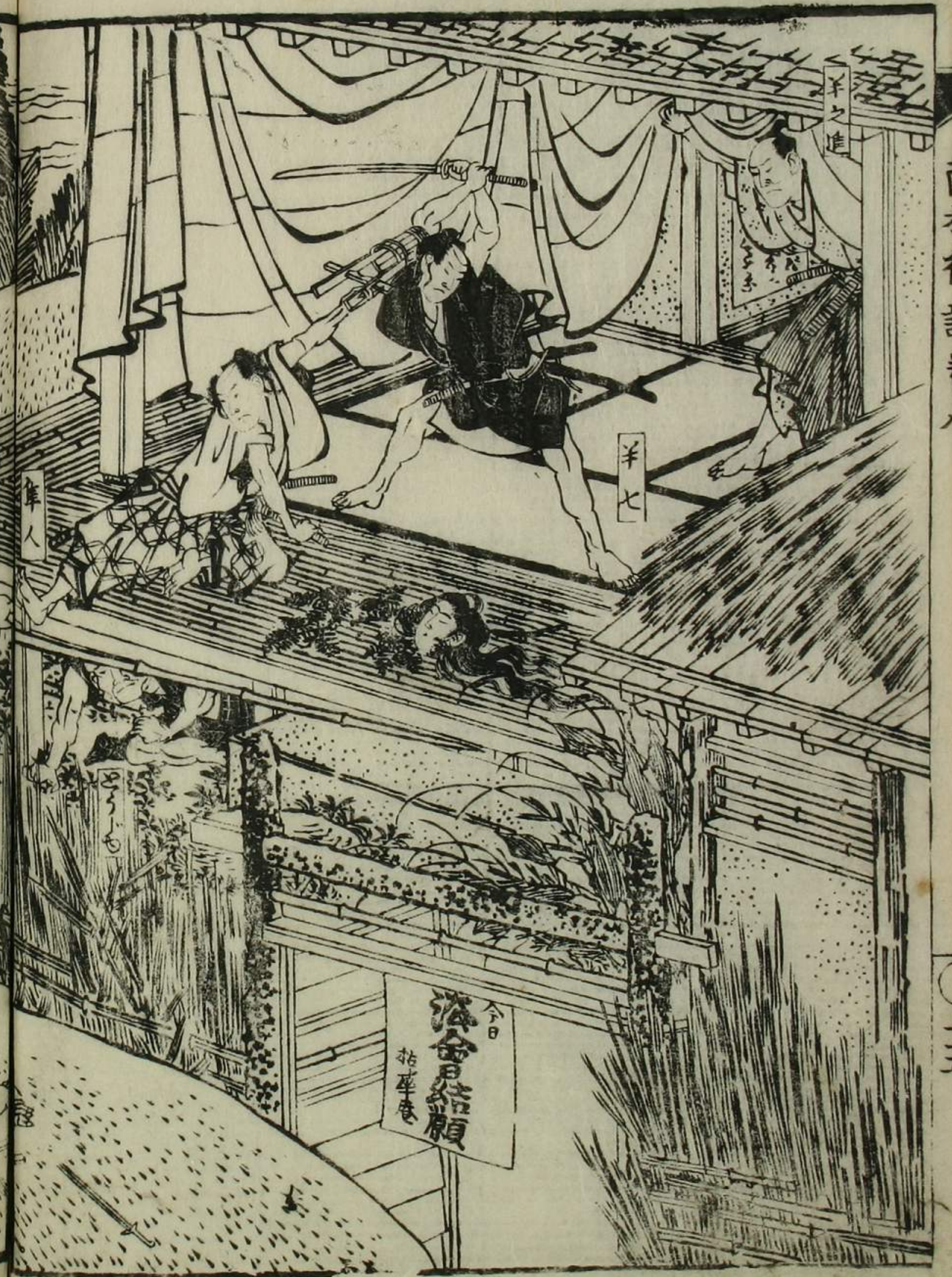
南河後已卷八



おんりあん  
 括縁庵  
 羊七  
 全み  
 あん  
 けん  
 と  
 を

かえり

全み



南河後已卷八

羊七

今日  
 浴會結願  
 括縁庵

全み



この如くぞ、伴ひしむる。吾妹子ハ世なるれ魂の幻不願し。これ飲  
 それ飲あふぬ。怪やと。思ひて小膝とそる身。刃を鞆に納て也。  
 中いささかぬ狗の雲疑念ハ更ふて且づりたり。當下隼人の  
 近く居寄りて扇を扇ふりたる不。や赤根生縁故を去せねば。  
 さる隼人を憎しとも。互逆人とも思ひつけ。今こそ諦と機密の  
 謀畧を移して定て。すの抑某又二郎太夫りり共小槐姫也  
 冊をさる。周防山口へ赴きて。兩三年を送る。移ふ大内殿の驕奢  
 笑ふあつたをよして。月を教ると。車のもるふ老匠。陶晴賢ハ  
 黨と樹比周して。主と凌ぎ。權を賣る。謀及の萌頭。且つり。つか又  
 衣春。くわの。晴賢が。殺んと。然る。あふ。ひとり。死分せし  
 り。持病の積聚。牙と。通て。鍼灸。葉。輝。ゆ。その。う。ひ。ろ。の。今。ハ。か。と

ろいてや。身と枕方。小振り。陶が逆謀。気色。よ見。つる。り  
 不真の。あふ。槐姫の。極めて危し。あふ。陶が阿黨の  
 佞人内外。小元満。れば。汝孤独の。身を。明白。これを。禦が。  
 却陶小教。と。あふ。は。姫君の。おん。為。あふ。悲し。う。れ。これ  
 死る。大内家ハ。乱。れ。飲。汝ハ。假。酒。飲。て。放。蕩。無。頼。と  
 人。あふ。の。せ。の。地。を。ち。逐。電。し。系。根。の。間。ふ。牙。を。屠。し。時。く  
 平。成。と。周。防。の。為。侍。を。定。め。晴。賢。謀。及。せ。り。と。あ。ふ。一。番。小  
 走。著。て。姫。君。の。先。途。を。救。ひ。な。り。事。い。ふ。難。儀。ふ。の。つ。密。入  
 陶五郎。隆春。小。意。を。告。彼。人。の。力。を。借。て。槐。姫。を。救。ひ。あ。わ。じ。  
 兼。て。赤。根。蟻。松。の。兩。老。匠。と。示。あ。つ。て。徳。井。家。の。援。兵。を。さ。し。  
 清。且。大。内。家。の。舊。好。を。去。る。西。國。の。武。士。と。相。譚。て。晴。賢。を。討



威まじし。陶五郎隆春へ主命賜ふ所あり。晴賢を父とせしむ。その公ざるたそふりしをうく。実父すこそをが。弱冠のと死に似たり。竊ふ汝と力を戮し。姫を救ひまらんりの。彼壮伎の。これらのる。双胸ふ秘て。遺言を忘るる。利よ。或心ひ勢不つ死。一点むらう。由不忠の志を披バ。未素永劫親子ふあらざ。と密やう。説諭し。その夜空く。りし。某失怙の。哀は堪ざ。とのども。君父の。為ふ。戮を。あべ。い。程も。あ。淫酒の。為ふ。武器。衣服を。活却。飽あ。で。人。は。疎。あ。て。遂。は。山口を。逐。遣。流。浪。て。浪。速。へ。赴。き。牙。ひ。と。う。棒。ぬ。ぬ。あ。る。藏。の。四。五。六。と。改。名。し。て。平。城。の。幸。耗。兩。國。の。形。勢。と。あ。ら。ん。為。ふ。一。如。は。宿。と。白。と。一。昨。年。の。冬。浪。速。を。去。て。去。年。の。春。あ。で。大。和。ま。の。り。あ。る。ふ。衣。と。統。井。殿。の。切。の。父。ふ。命。と。

のひて。志谷山。る。本。精。塚。を。遺。し。風。流。士。の。宝。刀。と。さ。う。出。さ。せん。と。し。め。ふ。す。一。口。は。傳。授。て。つ。ら。く。あ。ふ。ふ。ひ。し。陰。陽。師。村。上。親。實。が。い。ひ。つ。る。す。の。又。二。郎。太。ま。が。物。語。あ。て。受。し。る。工。も。あ。る。の。死。づ。ら。れ。バ。統。井。殿。と。う。ら。武。勇。ふ。誇。り。あ。る。ぞ。彼。宝。刀。を。出。し。し。る。禍。主。從。の。う。ち。あ。や。及。ん。と。六。つ。つ。あ。せん。と。て。領。小。真。愛。ひ。あ。り。お。お。う。ら。敗。滅。の。全。女。が。標。本。の。松。原。あ。て。川。辺。の。夢。々。と。を。怒。ん。と。て。却。養。母。の。自。殺。せ。し。を。を。る。の。如。く。由。死。あ。り。遂。は。全。女。を。そ。の。に。て。本。精。塚。を。掘。崩。し。風。流。士。の。宝。刀。を。死。所。に。埋。め。て。統。井。殿。主。從。の。牙。ふ。か。ら。ぶ。と。禍。を。禊。除。ん。と。謀。り。し。ふ。彼。大。刀。忽。地。空。中。ふ。閃。き。升。り。西。を。投。げ。飛。ま。り。し。う。べ。あ。は。く。ふ。安。ら。う。ら。全。女。ま。ま。誘。引。立。て。あ。く。周。防。國。へ。赴。き。去。の。び。く。よ。風。流。士。の。宝。刀。の。往。方。と。索。ま。る。彼。宝。刀。の。故。事。起。り。て。



お不慮の事なく、めいこも。晴賢、俄頃、小謀反して、義隆自殺し、  
 大内殿主役の間、快く、晴賢、俄頃、小謀反して、義隆自殺し、  
 もひぬ。まも又彼宝刀の、崇よあは、波入、米谷、ある。本精の、餘怨を  
 こふ、精どく。その禍の、移り、や、来けん。あつ、が、槐姫の、うい、とも、危し、つ、ま  
 ち、て、姫君の、おん、往方、を、索、ま、あ、わ、ら、し、亡、父、が、孤、忠、を、空、せ、と、風、よ、ど、ひ  
 夜、ふ、さ、と、絶、て、姫君の、おん、在、所、を、あ、ら、ぶ。かり、復、ふ、い、ぬ、る、十、六、日、刀、治  
 同、樹、が、欲、心、し、て、全、女、小、説、示、し、天、神、川、の、上、あ、て、川、邊、を、怒、せ、ん、と、し、ら、  
 割、川、邊、の、妻、女、を、つ、と、と、全、女、小、詐、遣、取、り、撞、木、町、へ、お、て、ゆ、け、と  
 つ、ひ、く、ぐ、り、ん、又、陽、あ、り、こ、ま、さ、く、と、全、女、あ、ぶ、も、底、ま、息、を、ま、さ、せ、だ、  
 陰、よ、か、花、を、化、所、へ、伴、ひ、直、ま、天、神、川、の、上、へ、ま、り、ゆ、り、ゆ、り、と、事、乃、  
 為、侍、を、張、へ、川、邊、の、姉、お、通、刀、祢、同、樹、を、川、へ、飲、流、し、て、川、邊、を、救、ひ、  
 同、胞、さ、よ、再、會、し、て、槐、姫、を、誘、り、ま、あ、ら、し、氷、上、へ、赴、ん、と、さ、る、ゆ、り、を、  
 竊、ま、と、る、ふ、全、女、も、又、こ、ま、さ、く、と、て、夫、を、不、川、邊、を、怒、せ、ん、と、  
 せ、く、ぐ、り、ん、又、全、女、を、助、る、お、り、ら、し、て、却、こ、ま、さ、く、と、て、避、留、め、川、邊、へ  
 さ、ら、ら、り、槐、姫、を、故、り、延、し、ま、あ、ら、せ、し、れ、ど、こ、の、り、ま、ゆ、り、ゆ、り、  
 風、雪、し、て、次、の、日、の、あ、る、ゆ、り、の、ま、り、ゆ、り、ゆ、り、の、おん、命、その、危、り、  
 風、雪、の、燈、火、他、し、ら、り、の、り、の、時、不、隆、春、乃、助、と、り、ま、あ、ら、し、  
 姫、君、を、救、ひ、ま、あ、ら、し、と、と、り、ひ、く、ぐ、り、ん、が、て、山、口、へ、ま、り、  
 ぬ、り、と、竊、不、陶、五、郎、隆、春、不、對、面、し、て、お、中、の、機、密、を、告、  
 る、不、隆、春、笑、て、眉、を、擡、め、り、ま、あ、ら、し、ゆ、り、の、り、の、機、密、し、ら、  
 云、苦、し、お、り、ま、あ、ら、し、と、槐、姫、へ、刀、治、が、宿、所、よ、隠、び、と、り、  
 と、り、ゆ、り、人、有、て、向、よ、養、又、晴、賢、不、告、り、ま、あ、ら、し、ゆ、り、の、り、の、機、密、し、ら、  
 救、ひ、ま、あ、ら、し、と、難、く、と、り、ま、あ、ら、し、ゆ、り、の、り、の、機、密、し、ら、



めいしる。梅姫ふまへませぬ男しるめいのわが養父との人ども。  
 面影定うふらまはる。年宗骨相姫君ふれはる。  
 女子とりて。おん身代アふりあり。中辺苦肉乃計を行はる。  
 萬ふっ姫君救ひ進まるとる。彼姫君ふ代ら  
 する。女子のありや。と同まうくが。忽地おありあり。御不同  
 樹と欺まて。他所へ潜一居らしる。すせが女房おたると年  
 宗といひ面影といひ。かまを梅姫ありといひ。こらありとも。誰  
 久疑ふべき。特ふ彼女子の姉。曾太郎の女見ふて。わが為ふ  
 外姪あり。ますせへえ。素忠孝の仕伎あり。幸急るまはすせ  
 小若ふるがごと。如此と不謀んとて。遠小隆春不謀一ありし。  
 まうありてありあり。おた女不若くが。養とて勇む郎女の  
 ろのくふらちも騒ぐ。風流士の室のあふ。寛家の側室  
 とらる。ふも。主とまの為ふの厭り。まうおを次。姫君乃。  
 先途ふ代りありて。良人の牙の幅ひ。長くたうら。これふも  
 幸ひと侍らば。ばの中。あてやうる。罪被り。も。懇ふ  
 ませ。山め。つら。が。失ち。ひ。ど。た。か。ま。濡衣の乾し。も  
 ろ。り。し。小物。お。托。し。く。玉枕。市。前。の。おん。いと。情。を。悔。え。ま。は。  
 助う。た。命。助け。ら。ま。し。恩。お。報。ふ。ま。この。時。あり。今。一。篇。は。  
 所天の面影。ん。ま。う。母。け。ま。と。懇。ふ。ん。つ。ら。ん。れ。ば。名。残。も  
 い。と。情。が。お。べ。お。り。ん。ど。ま。の。世。の。假。の。宿。永。さ。真。土。一  
 嬌。ま。の。契。を。た。ぐ。め。ある。と。言。傳。て。ま。と。い。ひ。う。け。て。後。い。ひ  
 残。と。隠。口。の。た。る。る。別。ま。と。い。ひ。ま。ま。が。それ。も。涙。より。死

百物語言書

二



うまゝるがら。よりのおこるを鬼あしつるの毎十分不謀らん  
 為。川辺とが村長評呼よせさ。この竊ふお花をおと。  
 背門口より潜び入り。槐姫とが何とみる。納戸より出  
 たりて。姫の衣裳をお花に被せ。お花が衣を姫に被せ。が  
 姫君とが准儀の竹輿に扶乘し。さとお花とが納戸の押入の  
 戸棚に隠れ。密にふ人をつけて槐姫とが代更延し進んで。は  
 陶五郎不呼ましと。れ外面よりきりあつ。あつて納戸へ跳入り。  
 外姫女お花が頸を刎て。隆春不逃し。あつてお花は謀りし。が奸  
 雄る晴賢も。絶て友善を疑り。又川辺同胞と追殺せ。さんば  
 幸々く槐姫のおん令急る。り川辺の舎舟と妻女の功あり。  
 こそこの誠心と感とるのあり。且この知の園花夏山両比丘尼。

草菴る。は槐姫の宜ふら。そ女お花が首級を贈りて。有縁の  
 道妙不尋ら。又姫君のうと委祿奉の遂と昔ん為。法會の花  
 主不假托て。夜を日不統と。きりあつ。は川辺あふのさる。は  
 愛情の羈不牽れて。は。そのまは貴縁更。まの危難を救ふ。烈女  
 お花が身後の貞標。面筋小見て。おとく感佩。嗚呼。奇るる。も。奇るる。  
 う。と。只管不歎賞し。一五二を説。は。奥不忽地。う。は。女子の声を  
 拈華微笑。尼姉のお通も。恙る。と。や。お。お。ひぬ。と。お。の。ま。ま。七  
 ひ。お。ま。ま。ら。て。或。飲。び。或。食。ま。原。来。お。花。の。槐。姫。の。中。令。代。り。お  
 けり。が。て。を。ま。ま。七。が。け。を。要。する。貞。標。を。烈。女。と。お。は。八。千。川。の。傳。ひ  
 した。世。よ。る。死。魂。の。す。び。ひ。出。て。端。ま。の。別。惜。歎。不。便。之。天。晴。の。厚。命。念。ね。  
 川。辺。の。う。ら。う。せ。が。姫。君。の。を。恙。る。う。ら。う。せ。も。古。人。二。郎。大。ま。友。春。ぬ。







